

かたりべ 84

豊島区立郷土資料館だより



王子電気軌道巢鴨変電所



完成直後の大谷口配水塔

昔、豊島区の電気と水道はどこから来ていたか

郷土資料館では、一月三十一日(水)から三月一日(日)までの会期中、企画展「豊島区のライフライン―電気と水道の地域史―」を開催いたします。

今日の社会では、電気や水道といったいわゆる「ライフライン」は、人々が生活していくうえで欠かすことのできないものとなっています。近代以降、これらが各家庭にひかれたことによって生活様式は一変し、快適で便利で清潔な暮らしを実現させることになりました。スイッチを押せば電灯がともり、蛇口をひねれば水が出る。あまりにも身近な存在であるために、ふだんは当たり前のように意識せずに使っています。

ところが、災害時などにこれらの供給網が遮断されてしまうと、とたんに全生活機能が停止してしまう事態に陥り、そのとき初めて、私たちは電気や水道に全面的に依存していることに気づかされ、その重要性を再認識するのです。一九九五年に発生した阪神淡路大震災や、二〇〇四年の新潟県中越地震後のショックなニュース映像は記憶に新しいところです。また、最近では、環境問題や省資源、省エネルギーといった観点から、ライフラインに対する関心も高まってきています。

今回の企画展では、豊島区地域において、どのような経緯でこれらのライフラインが整備されていったのかについて、図表や写真、昔なつかしい生活用具や電化製品を駆使しながら明らかにしていきます。会期中、多くの方々のご来館をお待ちしています。

■展示内容：Ⅰ豊島区の水道 Ⅱ豊島区への電気供給 Ⅲ戦後の水道と電気需用の増加

■会期：一月三十一日(水)～三月一日(日)ただし、毎週月曜日と二月一日(土)、一八(日)は休館いたします。

(伊藤)

スガモプリズン

を行ないました

池袋駅東口のサンシャインシティの地

は、かつて巣鴨刑務所があったところ

です。同所は第二次大戦後一九四五年から

五二年まで連合軍（アメリカ軍）に接收

されてスガモプリズンと呼ばれ、戦争犯

罪を問われた人々が収容されていま

ました。死刑の執行もここで、行なわれ

ました。戦犯裁判とスガモプリズン

講座は、「スガモプリズン 戦犯たちの

平和運動」や「朝鮮BC級戦犯の記録」

などの著書で知られる内海愛子先生（恵



講座風景写真

泉女学園大学教員、

日本平和学会会長

をメイン講師に、

元受刑者の李鶴来

さんをゲスト証言

者として開催されました。

内海先生は戦争犯罪裁判の概略と問題

点、受刑者たちの動向、今、何を考える

べきか、など熱心に話されました。

戦犯裁判には、「平和に対する罪」に

問われた国家指導者たち（A級戦犯）に

ついての東京裁判と、捕虜虐待や民間人

殺傷などの「通例の戦争犯罪」をあつか

った横浜やアジア各地などでのBC級裁

判とがあります。日本の戦争責任や戦争

犯罪が問われたのは当然ですが、連合

国の戦争犯罪がとりあげられなかったこと、

慰安婦問題にふれなかったこと、朝鮮人

強制連行が無視されたことなどの問題点

もありました。

スガモプリズンに収容された受刑者た

ちは、所内で新聞の発行など、さまざま

な活動を行ないました。講和の前後から、

所外での受刑者釈放運動や、彼らを犠牲

者としてあつかうような動きが生まれま

す。受刑者のなかから、こうした動きが、

日本の戦争を肯定したり、日本再軍備の

る「平和運動」が始まりました。彼らは、

自分たちの裁判の問題性を訴えると同時

に、日本の戦争がもたらしたアジアへの

加害の問題にも考えをめぐらし、再軍備

の動きに反対しました。こうした人々の

投書や著作が一定のインパクトを与えて、

文学作品や映画・テレビなどに取り上げ

られるようになったのでした。

旧植民地出身BC級戦犯の苦難の道

李さんは、自分の体験を語られました。

日本統治下の朝鮮全羅南道生まれの李

さんは一七歳の時、日本軍俘虜監視員と

してタイ俘虜収容所に勤務しました。

戦後、李さんは捕虜虐待の罪で死刑判

決を受け、後懲役二〇年に減刑されて、

スガモプリズンに収容されました。李さ

んの監視員への応募は、当時の状況では

實際上、強制といえるものでした。一九

五六年仮釈放されましたが、その時には、

在日韓国・朝鮮人、在日台湾人は外国人

とされるようになっていました。同じよ

うに出所した日本人元受刑者には、軍人

恩給ほかの補償措置がありました。李

さんたちには、外国人であるということ

で、そうした補償や援助は一切なされま

せんでした。

元々、日本人として募集され、日本軍

争犯罪に問われ服役しながら、出所した

時点では、厳然とした差別が待っていた

のでした。また、戦後の韓国ではこうし

た朝鮮出身の戦犯たちは対日協力者と扱

われていました。

李さんたちは、生活に追われながらも、

日本政府へは正当な補償と援助を、韓国

政府へは名誉回復を訴える運動を長く続

けています。二〇〇六年六月、韓国政府

は李さんらの訴えを認めて、強制動員の

被害者として認定しました。待望の名誉

回復がなったのです。しかし、日本政府

への要求はかなえられていません。

講座参加者からは、「体験されたこと本

人の言葉に重みを感じ、2度と戦争は、

いけない、してはいけないと思いました」、

「李さんの無念さ苦しさいかばかりかと

察するに余りあり胸が詰まりました」、

「日本人の一人として恥しくも赤面の思

いで聞き入りました」といった感想が寄

せられていきます。

内海先生のまとめの言葉（戦争裁判に

ついての意見の違いはあるとしても、事

実として何があったのか、身近なところ

から、自分たちで確かめましょう」を受

けとめて今後も関連する企画をすすめて

行きたいと思えます。

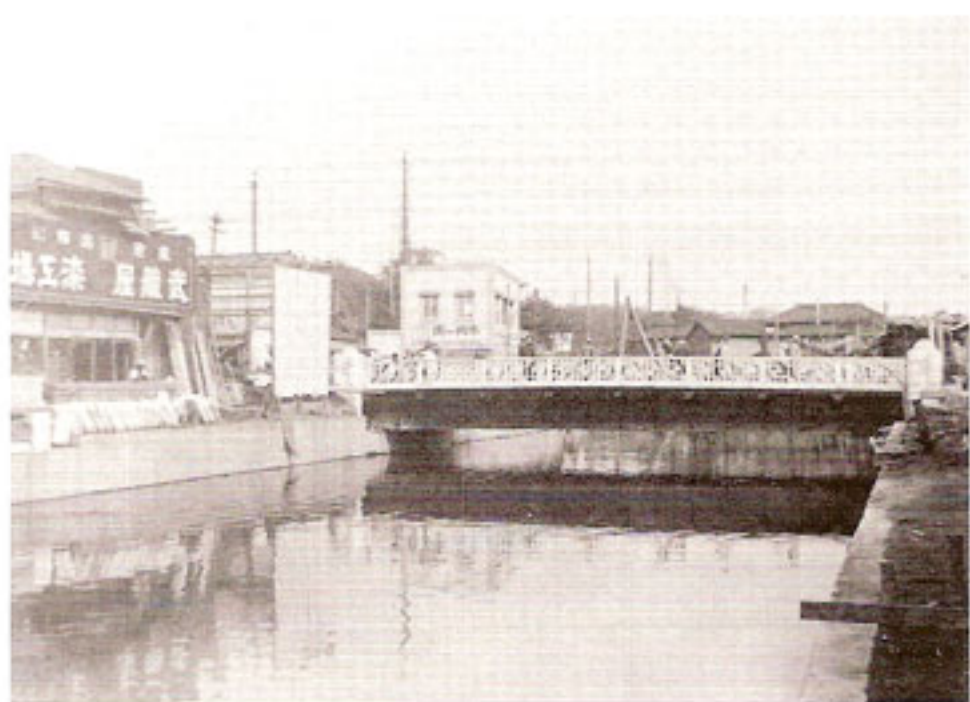
（青木）

セピア色の記憶

第18回

「あなたはもう忘れたかしら……」神田川あれこれ

左に示した二枚の写真は、ほぼ同じ地点から撮影した昭和初期と現在（二〇〇六年一月一九日）の神田川にかかる豊橋（新宿区西早稲田一丁目）付近の様子です。地図に示した*印は撮影地点を、↓印は撮影方向を示しています。現在の写真には、川の兩岸に植えられている桜の枝が写り込んでしまい、周りの状況がややわかりにくくなっています。



武蔵屋染工場」と書かれた看板が見えます。当時の神田川流域には、浴衣地や手拭染、糸染、友禪、更紗などの染工場が立ち並んでいました。澄んだ水が豊富で、交通の便が良かったことが、この地域に染色業者が集まることになった理由とされています。兩岸にずらっと並んだ乾し場の風景は壮観なものでした。さて、井の頭池（三鷹市井の頭四丁目）を主水源とする神田川は、途中、善福寺



川・妙正寺川、さらに玉川上水からの助水を合わせ、豊島区のほぼ南東境を流れています。そして、かつては、文京区関口二丁目にあった大洗堰で二本の流路に分かれ、そのうちの一本は、東進して最終的に隅田川へ達し、もう一本は、神田上水として江戸居住者が日常生活に利用していました。以前の神田川は、現在と比べて蛇行の度合いが大きく、大雨が降ると氾濫も頻



1974（昭和49）年7月 豊島区高田三丁目にて

繁に起こりました。そのため、大正末から昭和初年にかけて河川改修工事が行われ、一時は洪水が起こらない時期もありました。ところが、一九五〇年代後半以降、流域の宅地開発や道路の舗装などによって、大雨時の雨水が一気に川へ流入し、再び氾濫が起こるようになります（右写真参照）。そこで、一九八〇年前後から再度改修工事が始まったのです。都市型の集中豪雨に備えるため、地下調節池などを整備する作業は今も続けられています。（秋山）
*本欄は『町工場の履歴書』（郷土資料館特別展図録）（一九九四年九月発行）の記述を参照しました。

【資料の寄贈】

「みづから書き留めて」—「雛人形の思い出」雑司が谷・若林さん—

◆資料として伝えるために

資料館へ資料を寄贈していただくとき、

提供される方から資料にまつわることを

おたずねします。例えば、いつ、どこで、

誰が、どのようにして使ったものかとい

うことがあげられますが、このことによ

って、寄贈品ははじめて「資料」となり

す。そして、展示の際に解説ができるの

です。お話しを記録するには時間がかか

りますが、大事な作業であることはいう

までもありません。寄贈者とは、お話し

が一〇分で終ることもありますが、とき

には一時間、二時間になることもありま

◆自分自身で書き留めて

このたび、雑司が谷にお住まいの若林

多恵子さん（昭和五年生まれ）から雛人

形を寄贈いただきました。資料館ができ

て二〇年が経ちますが、これまで何件か

の雛人形の寄贈はありました。しかし、

その多くはご本人のものではなく、ご自

分の母親や祖母のものであったり、由来

が不確かなこともありました。また、段

飾りの何段目かに飾るお雛さまが紛失し

ていることもありました。今

回は、寄贈者が幼い頃から毎

年飾り続け、戦火をくぐりぬ

けてきたものです。また、ご

本人からは、ありがたいこと

に個々の人形や道具等の由来

を記した覚書をいただきました

た。これを機会に、資料の伝

え方を考えてまいりましょう。

◆覚書き・「雛人形のこと」

「昭和六年三月の初節句から

昭和一六年の三月までは毎年

飾り、その後は物置に放置。幸い焼けることもなく残りしました。飾っていた頃は父が毎年何か新しいものを買ってきて、お道具などが増えていきました。お膳や



最初は壇を作ることから始まります

重箱、箆筒などは本蒔絵で良いものだと

聞いていましたが、段々質が悪くなり、

薬玉は子供心にも粗末な物に見えました

が、最後に買って貰ったものとして大切

にしていました。戦後はいつ初めて飾っ

たか覚えがありませんが昭和二五年から

三〇年の間だと思えます。このお雛様は、

以下のように分けられます。A・初節句

に揃えたもの B・その後買い足された

もの C・戦後買ったもの」と、書かれ

てありました。

◆それぞれのお雛さまと道具

Aの部（昭和六年三月）

1、内裏様（親王） 男雛の、しゃくを

持つ親指が欠けたので直してあります。

女雛の、冠の紐は切れたのでフランス刺

繍の糸にしています。

2、三人官女 親戚からお祝いに貰った



お子さんが書いた習字の紙で包んだ人形も

物と聞いています。あまり良いものでは

ないと母が不服を言っていました。

3、五人囃子 太鼓のばちが紛失。今の

は私の手作り。元のは堅い木で綺麗に出

来ていました。切り口は円ではなく楕円

でした。



若林さん最後の雛祭り 二〇〇六年三月二二日

4、右大臣・左大臣 お年寄りと若いのどちらが右大臣か左大臣分かりません。これも戴きものだと聞きました。

5、金屏風 本物の金で出来ているから何年経っても変わらないと父が言っていました。本当のようです。

6、菱餅の台 二ケ

7、御掛盤 二ケ お膳の上に五種の食器が並びます。

8、高杯 二ケ

9、御重箱 四段重ねです。

10、はいはい人形 九月生まれですから知人からの誕生祝のはいはい人形は、初節句からずっと雛段に飾られていたよう

です。ガラスケースは壊れました。台の布は戦後張り替えたように思います。

Bの部（昭和七、八年頃から十六年までのもの）

11、箆筒他 箆筒・二棹 長持・一つ 挟み箱・二つ

12、三人仕丁 身分が低いから履物は無く、台も粗末とか聞きました。

13、三方瓶子 三方の上に瓶子が二つ並びます。

14、雪洞（丸形）二ケ 六角形の物がはじめにありましたが壊れました。

15、鏡台他 鏡台と針箱です。

16、お籠 籠の左脇の、毛槍などを立て

る物一つ紛失。

17、箱入りの人形 正直爺さん。ここ掘れワンワンの場面。

18、箱入りの人形 舌切りすずめ。すずめのお宿の場面。ケースのガラス一枚破損。

19、葉玉（箱無し）二ケ 昭和十五、六年に最後に買って貰った物です。父が「戦争で、もうこんな物しかないよ。蒔絵を作る人が居ない」と言っていたのを覚えていいます。箱も粗末な紙の箱で何時の間にか壊れました。

Cの部（昭和二五年から三〇年頃までに買ったもの）

20、雛段 最初の雛段は多分戦後に焚き付けとして使ってしまったと思われ

ます。これは五段しかない上、板が薄くて反ったりして使いにくいものです。色々工夫して飾っていますがこのままでは無理かもしれません。

21、赤い布 初めにあった緋毛氈は行方不明で、これはキンカ堂で化繊の布を買ってきてミシンで接いで作りました。

22、白酒の瓶二ケ 最初にあったのは割れました。実際に白酒を入れたことはありません。

23、桜・橘 最初のは絹布のつまみ細工で出来ていて美しかったです。虫に食

われ、垣根もばらばらになってしまいました。



けんどん式の桐の箱、紙の箱はその時代を思い出させるものです

◆覚書き・「思い出すこと」

若林さんは、子供のころのことを次のように書いて渡してくださいました。

「私が遊びにいった家には親戚宅にも友人宅にも女の子が居れば雛壇を飾っていましたがね。だから誰かの家に集まって雛祭りを遊ぶということはありませんでした。殆どは兄弟姉妹が居ましたから家族でお祝いしたのでしょう。私は一人っ子だったので雛段の前でワイワイ遊んだというような覚えはありません。

雛あられ、白酒、籠に入ったお菓子な

ど供えました。籠に入ったお菓子は飴で作った物や干菓子もありましたが、溶かした砂糖を型に入れ、薄く固めて色を着けた物が面白かったです。海の物としてタイ、ヒラメ、サザエ、ハマグリ等。山の物はカブやタケノコがあったでしょう。もうあまり思い出せませんが、白い地に赤や緑や黄色で色をつけ、一つが六、七センチ位ありました。尤も中は空洞で薄っぺらでうっかり持つと壊れてしまいました。そんなのが一つの籠に五、六個載っていたので籠も大きかったですね。駄菓子の子の類だと思えますが普段は見なかったので楽しみにしていました。

お雛様も姉妹で遊んで壊してしまったと言う人も居ますが、私も箆筒を開けたりして遊びましたが一人なので大切に出来たように思います。

小学校二年生からしまうのは私の役目で母親が監督していました。細かい物を紛失したのは戦後出してからです。太鼓のばちなどは本当に残念です。またその頃は接着剤が無いため、ガラスケースなどの修理が出来ず、割ってしまったりしました。

もう一つ綺麗な振り袖を着たおかつば頭の日本人形や外国土産のフランス人形も飾りましたがそれらは私の子供達のお

もちやになつてしまいました。

戦後暫くは続けて飾っていましたが、色々な事情で長いこと飾らず、あまりにかわいそうに思って還暦の時に飾り、またそのまま、古希に飾り、友人が見たい、というので昨年また頑張つて飾りました。しかし今私に娘はなく、孫も男ばかりでお雛様の行く末が心配になっていましたので、今回豊島区立郷土資料館で買って下さることを大変嬉しく思っております。

今年は何年か言えは喜寿になるようです。お雛様も私も無事ここまで生きてこられたことを感謝して改めてお礼申し上げます。
二〇〇六年三月

◆飾ること・仕舞うことが大変

今回は、若林さんのご好意で最後の飾りの機会に、段の作り方と飾る順番、そして仕舞い方を教えていただきました。



最初に顔を包みます。二〇〇六年四月一三日

現在では、流行や住宅事情もあって、家の座敷に飾られることは少なくなっている雛人形です。一年に一回の雛祭りは楽しみにですが、ひとつひとつの人形を出したり細かな道具類を出したりしまつたりすることは面倒なことでもあります。



人形全体を包み、決められた箱にしまします

さて、来年、資料館では上手に飾れるでしょうか。今、お雛さまは当館の収蔵庫で出番を待っています。
(福岡)

郷土資料館からのお知らせ

集めています！

区内商店街のようすがわかる写真を集めています。お借りした写真は当館でお預かりし、接写してお返しします。そして、展示会のときに大きなパネルにして展示させていただきますと考えています。「こんなものはどうか」と迷ったときには、迷わず資料館に連絡を下さい。ご協力をお願いいたします。

♪ 作業室から ♪

年に一回、資料を害虫やカビから守るための燻蒸では、ふだん開けていない模様の後扉も開けます。



常設展示室ヤミ市の模型

編集後記

季節感を感じるのとはどのようなときでしょう。年末は、街路樹にまきつくクリスマスのためのイルミネーション。それが終わるやいなや百貨店や飲食店の前にたつ門松。少なくなったとはいえ住宅の玄関に貼られる紙製の注連飾り。次は、その年の恵方(よい方角)に向かって太巻き鮓を食べると縁起がよいという宣伝をする各種広告。

当館では、これまで、資料の寄贈の時期で季節感を感じてきました。春とか秋でした。家の増改築や引越しがその時期になるからでしょう。ところが最近、時期がまちまちになりました。つまり、真冬にも真夏にもあるようになりました。世間一般の人の動きに季節感がなくなってきたからなのでしょう。来年度の資料館の事業は、このようことを意識しながら、事業の年中行事を決めようかしら？
(ふ)

かたりべ

・ No.84

・ 2007年1月31日

・ 豊島区立郷土資料館

・ 豊島区西池袋2-37-4

・ 電話 03-3980-2351

http://www.museum.toshima.tokyo.jp